

心を豊かにする音楽科

< 第4回講座 >

- * 日時 : 2021年7月30日(金) 09:50~11:50
- * テーマ : 「モンゴルの草原の風に乗って」
- * 講師 : マハバル・サウガゲレル氏
- * 演奏曲 : 1. チンギス・ハーンの讃歌
2. モンゴルの四季
3. ホーミーのメロディー
4. 川の流れのように
5. 昴 など
- * 演奏楽器 : リンベ、横笛、ホーミー、馬頭琴 ほか



今回はモンゴルからマハバル・サウガゲレル先生をお迎えして、モンゴルの生活・文化の紹介や民族楽器による演奏、貴重なホーミーを聴かせていただきました。

サウガゲレル先生はモンゴル・ウランバートルのご出身で、モンゴルや中国の音楽学校をご卒業後数々のコンクールで受賞され、世界中で音楽活動や指導に携わってこられた中2017年にはモンゴル国より最高位の勲章「ALTAN GADAS(北極星勲章)」を受賞された実力派音楽家です。昨年までは日本在住で現在も東京音楽大学講師をされていますが、今年4月からはモンゴル国立コンセルバトワール講師として指導をされています。

今回の講座は前半30分は馬頭琴、リンベ(横笛)など楽器の紹介と曲の演奏をしていただきました。圧巻はリンベの演奏で、1曲3分を優に超える変化に富んだ演奏を全く息継ぎなしに吹かれました。馬頭琴を弾きながらのホーミー(倍音による歌唱)では不思議な世界に誘われました。また口琴という珍しい楽器の演奏もありました。(右図)



次にパワーポイントを使って、モンゴルの生活や文化、年中行事や料理など丁寧に説明していただきました。モンゴルの国土は日本の4倍で大草原のイメージですが、ウランバートルなど都会は東京・大阪と変わらず車の渋滞に悩まされているとか。日本でも馴染みの深いモンゴル相撲が行われるナーダム祭では、他に弓矢競技や競馬も紹介されました。競馬の騎手が子供に限られているのは、レースが30～40kmに及び馬への負担を減らす為だとか、ホーミーには楽譜はなく、川の流れの音を参考にしたり山々を眺めながら練習するなど、まるでモンゴルに身を置いているような錯覚に陥るほど、分かりやすくまたウィットにきいた楽しい講義でした。



途中休憩の後は約40分間多くの曲を演奏していただきました。中には日本の『昴』もありまた小学校の教科書にも出てくる「スーホの白い馬」に因んで馬の駆ける様子や嘶き、ラクダの歩みや鳴き声を琴で表現され、驚きと納得の講義でした。

最後の質問コーナーでは活発に質問が出ました。先生が市場に行きホーミーの倍音で「えー、いらっしゃい」とだみ声の真似でいたずらをする話では、皆思わず笑ってしまう

楽しい講座でした。**モンゴルのサウガゲレル先生、ありがとうございました！**

